



学校だより

平成29年7月20日

横浜市立高田中学校

8月号(第29-05号) TEL: 591-4183 校長 福田 之男

ネットの利用について

明日から38日間の夏休みが始まります。この38日間という膨大な時間をどう過ごし、どのように生かすかが生徒の皆さんの課題です。まずは自分なりの夏の計画をしっかりと立て、一瞬一瞬を大切に過ごしてくれることを期待しています。



さて、自由な時間があるということで、インターネットなどを利用する人も多くなると思います。最近、市内の中学校でネットが関係するトラブルが起きています。「LINE」というアプリ上やメールで、人の悪口を書いたり、掲示板に個人名などの個人情報を無断で書いたり、写真を勝手にアップしたりなど、様々な問題が起きています。

インターネットはとても便利なコミュニケーションツールで、情報を得たり、また、他の人と情報を共有したりするときに大変役に立ちます。しかし、便利な反面、使い方を誤るととんでもないことになってしまいます。

インターネット上の空間のことをサイバースペースとも呼びますが、インターネットの空間は一つの街や世界になっていると言えます。インターネットの空間で何かを行うことは、街の中で何かを行うことと同じと考えてください。この空間では、勉強したり、遊んだり、知らない人と知り合ったりします。でも、この空間は一つの世界なので、様々な人が居ます。必ずしもいい人ばかりではありません。皆さんをだましたりする人もいます。知らない人とのメールの交換でも、中学生になりすましたりする人もいて、時には皆さんが犯罪の被害者になる可能性もあります。ですから、インターネットを利用する際には、街に出かけているつもりにならないといけません。現実の街にも、中学生にとって危ない地域があったり、皆さんをだまそうとしている人達もいたりします。犯罪の被害にあわないように危ない地域に近づかないなど、十分注意して行動していると思いますが、インターネットを利用する際にも、十分に注意して、危険な場所(サイト)には、近づかないようにするなどの配慮が必要です。

それでは、インターネットを利用する際には、どのような注意が必要でしょうか。まず、自分や友だちの情報は出さないということがあげられます。Twitter

や掲示板などで、名前や写真など個人を特定できる個人情報をアップするということは、現実の空間に例えていえば、街の人通りの多い所で、不特定多数の人に、写真や名前を見せているということになります。現実こんなことをやる人は、居ないと思いますが、インターネットの空間では、行ってしまう人がいます。また、写真には、設定によってジオタグというものが設定されていて、それにより写真を撮影した場所が特定されてしまうことがあります。何気なく自宅で撮った写真をライン等のネットにアップすることにより、場合によっては、不特定多数の人に、自宅の場所を教えるということがあります。また、他人の個人情報を軽い気持ちでアップしてしまう事例が多くあります。インターネットでは一旦発信した情報を回収することはできないという特性があります。一度、表に出したものは、絶対に回収できず、永遠にインターネットの世界に存在することになります。ですから、インターネットを使う際には、公開してよい情報とそうでない情報をしっかりと区別する必要があります。また、他人の情報については、絶対に公開してはいけません。軽い気持ちで、悪口や噂を書き込むと、それによって傷つく人がでてきます。掲示板やチャットなどで、軽い気持ちで書いたことが、大きなトラブルの基になります。匿名だからといって無責任な行動を取らないようにしてください。

インターネットは、「火」のようなものだと考えられます。人間は火の使用により、照明・暖を取る・獣から身を守る・食物に火を通すなど多くの利益を得ました。「火の使用により初めて人類は文明を持つ余裕をもてた。」と考える人もおり、火を文明の象徴と考える人もいます。しかし、扱いようによっては、火はとても危険なものです。インターネットも、手軽に情報を得たり、自分の考えを発信できたりするととても役に立つ道具です。でも、使い方によっては、危険なものにもなります。皆さんには、インターネットのプラス面とマイナス面をしっかりと認識し、賢く使ってほしいと思います。

よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト港北区審査会

6月30日（金）に菊名のウォータープラザで「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト港北区審査会」が開催されました。このスピーチコンテストは、「児童生徒一人ひとりが日本の平和や国際平和のために、自分の考えや自分ができることをことばで表現することによって、日本の平和や国際平和に対する意識を高め、平和のために自ら実践しようとする態度を育成する」ことをねらいに平成8年から行われています。

スピーチの共通テーマは、平成8年以来変わらず「国際平和のために、今自分にできること」です。スピーチでは、日本の平和・国際平和、国際理解、人権、福祉、環境、平和募金活動（ユニセフ募金）、国際貢献・国際協力、東日本大震

災などの視点から身近な事柄や自分の具体的な取り組みについて述べます。

区内9中学校から選ばれた9名の代表が集まり、スピーチを行いました。本校からは、3年2組の源波旭飛さんが代表としてスピーチを行いました。修学旅行や平和学習をとおして学んだことについて堂々と発表しました。



2 学年 普通救命講習会

7月4日（火）の1校時から4校時に本校体育館を会場として、2年生対象の「普通救命講習会」が実施されました。この講習会は高田消防出張所、高田消防団のご指導により行われました。内容は、①DVD視聴と消防署員の演示による心肺蘇生法の基礎知識・救急処置の手順 ②心肺蘇生法実技指導 ③AEDの取扱い実技指導 ④止血法、異物の除去等の演示 などでした。AEDの実技指導では、人形を使用し、グループに分かれ、消防団の皆様の指導により、生徒一人ひとりが真剣に訓練に取り組みました。



生徒の感想

- 今日起こったことが目の前で起きたら、焦ってしまうと思うが、冷静になって助けたいと思う。今日習ったことを忘れないようにしたいと思う。
- 救命処置の手順で自分にもできることがあると知り、少しでも人の命をつなぐためにも、今日やったことを生かして、家族や友人だけでなく、自分でも助けられる命は勇気を出して行動したい。
- このようなことは、大人に任せた方が良いと思っていたけれど、私たち中学生にも誰かを助けることができるんだと改めて感じた。もし、緊急事態の時があったら、ただ見ているだけで何もしないのではなく、今日学んだことを生かして、行動できる人になりたい。

社会を明るくする運動 座談会 ～中学生とともに～

7月5日(水)大倉山の港北区福祉保健活動拠点にて「港北区社会を明るくする運動 座談会～中学生とともに～」が行われ、区内中学校9校の代表が集まりました。「社会を明るくする運動」とは、法務省が主体となって犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。この座談会では、だれもが安全で安心な暮らしをかなえるために、中学生とともに身近な問題を考え、今何が求められているのか、何ができるのかを話し合います。

今回の座談会のテーマは、「不登校について」で、本校からは3年1組 岡田莉奈さん、2年2組 勝田奈々美さんが参加し、2グループに分かれて、他の中学校の代表や地域の方と意見交換をしてきました。



社会を明るくする運動 座談会～中学生とともに～に参加して 3年1組 岡田 莉奈さん

7月5日、社会を明るくする運動の座談会「中学生とともに」に出席してきました。私たちのグループでは、不登校になる子を減らすためにどうすれば良いかについて話し合いました。その中では、“学校行事でクラスや学年のきずなを深めていく”“いつもと雰囲気が違う人がいたら声をかける”“クラスでの雰囲気づくりを大切にする”などの意見が上がりました。話し合いのまとめとして、不登校になってしまう理由は様々なので、“学校に来たときに明るく笑顔で話しかける”といった学校に来た時の対応が大切なのではないと私たちは考えました。不登校の課題は、完全に解決することはできないけれど、自分たちでもできることがあるんだということを改めて知ることができました。

2年2組 勝田 奈々美さん

私は、座談会を通してテーマである「不登校」について、とてもたくさんの方の意見が出され、不登校の課題がどこの学校でも起こりうることだとわかりました。私は、話し合いを通して、今まで遠いことのように感じていた不登校の課題を、ぎゅっと身近なことのように感じるようになりました。そして、話し合うことで終わるのではなく、学校になかなか来れない人が、来やすい環境を作って待ってほしいと思っています。この経験を、今後の学校生活に生かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。